



「忍術まつり」時代に行われた市中パレードの様子



忍者行列では忍者ゆかりの武将も練り歩いた



忍者ダンスコンテストには全国から参加があり、盛り上がりを見せた



忍者衣装の着付けボランティアの山中さん。定年後、不け防止に始めたそうだが、観光客との触れ合いや子どもたちの笑顔がやがやいと話す

### ■伊賀上野NINJAフェスタ2012

期間：～5月6日(日)

場所：伊賀市街地、上野公園

問い合わせ：0595-43-2309

(伊賀上野NINJAフェスタ実行委員会事務局)

<http://www.city.iga.lg.jp/ctg/c99/99.html>

よう。  
例年約3万人が訪れる「伊賀上野NINJAフェスタ」を影で支えているのが市民ボランティアである。昨年のボランティアスタッフは延べ878人(実行委員会事務局登録者数)で、中には都合がつかない日だけの参加という人も少なくない。  
実行委員会事務局が募集するボランティアは2種類。忍者道場でのゲーム進行や受付などを担当するイベントボランティアと、忍者衣装着用を手伝いをする着付けボランティアである。期間中の土日曜日(祝日のうち1日単位で参加登録する。  
多忙を極めるのが、忍者衣装の

着付けボランティア。「忍者変身処」や「ぶち忍者変身処」で昨年、忍者に変身した人は約9千人にのぼる。なにしろ忍者衣装は9つのパーツからなっているの、ひとりに着付けるだけでも時間をとられるのだ。  
以前は、忍者衣装の整理・洗濯された衣装をパースとサイズに分類して、たまたま、色ごとに分ける作業をするボランティアも多かったが、現在はクリーニング店に出しているの、募集をすることもなくなった。観光客の忍者変身を始めた10年前、変身者数は1千422人。今は、市職員を含む実行委員会メンバーだけで洗濯から分類整理までしていたそうで、徹夜になった

ときもあったという。  
今回も多くのボランティアが道場や変身処、イベント会場などで活躍しており、笑顔で観光客を迎えている。  
**NINJAフェスタ**  
**染しみ方を伝授**  
まずは忍者姿に変身したい。赤やピンク、青、緑、黄色など、色も豊富。忍びの装束は月明かりでも周囲に溶け込んで見える濃紺が本来の色だそうだが、華やかな方がより気持ちよき立つと、多くの人がカラフルな衣装を選ぶ。  
女の子にはピンクが一番人気で、毎年色を変えて楽しむリピー

ターもいるらしい。目立つてはいけない忍者が派手な衣装で目立つてしまつてから、キャッチコピーは「忍んでも忍びきれない伊賀上野」だ。  
市街地に点在する6つの「まちかど忍者道場」で、手裏剣や吹き矢、弓矢などに挑戦するのにおすすみ。各道場で得た点数の合計で「上忍」「中忍」「下忍」の判定が出され、それぞれのランクに応じた色の手裏剣型記念メダレットが贈られる。ぜひ金色に輝く「上忍」を目指して頑張ろう。  
忍者道場をはじめ、各イベント会場が散らばっているの、多くを見て回りたいという人は伊賀鉄道を利用して。忍者衣装を着てい

ると、イベント会場の最寄り駅である「西大手」駅一帯、駅区間が無料で乗り放題。駅員も忍者姿で出迎えてくれる。  
もちろん忍者気分です、まちなかを散策するのも楽しい。道場で忍者修行(道場シート1枚700円)をするのと協賛店などで使える500円分の土産(商品券)がもらえる。商店街でお土産を選んだり、地元の名物を味わったりできる。  
ゴールデンウィークには日替わりイベントも連日開催され、人出も多い。事前に「伊賀上野NINJAフェスタ2012」のホームページや、イベントマップなどを参照しておこう。



「伊賀上野NINJAフェスタ」が現在のスタイルになって、今年で10周年。近年では延べ900人近くのボランティアスタッフが参加するほど地域に根付いた、春の恒例イベントだ。来客数が増えるゴールデンウィークを迎え、まちは忍者一色に染まっている。



「巻|頭|特|集| 地域ぐるみで育て、盛り上げてきたイベント

# 伊賀上野NINJAフェスタ

観光客が楽しめる  
体験型(移行)

旧上野市では伊賀流忍者のふるさととして、早くから忍者をテーマにした観光振興に取り組んでいた。「伊賀上野NINJAフェスタ」の前身である「忍術まつり」の第1回が開催されたのは、昭和38年4月である。  
当時の忍者ブームを受けて、「忍術音頭」が作られ、お祭りでは踊り手たちが列を連ね、忍術音頭を踊りながら市中を上野公園までパレードした。開催は1日だけで、昭和44年まで続いたが、その後途切れてしまつた。  
再開されたのは昭和54年。「忍者まつり」と名称を改め、メインイベントは時代行列であった。約400人が忍者や忍者にゆかりの深い武将に扮して、銀座通りから上野公園までを練り歩いた。多いときには、1千人以上が行列に参加したという。  
平成7年に、お祭りは大きく変わる。現在の名称「伊賀上野NINJAフェスタ」になったのはこのときで、より時代に合った内容しようとしてイベントを中心に据えた。忍者をモチーフとした「忍者ダンス」のコンテストを開催し、若い世代に向けてもイベント

の発信に努めた。  
しかし、平成13年になると見直しが行われる。行政や観光協会などが主導するのではなく、市民による実行委員会方式に変更して、市民が主体となった地域密着型のイベントを目指した。  
最初の2年は試行錯誤の年だった。市の職員が忍者姿になるなど、さまざまなアイデアが寄せられ、実際にいろいろと試みられた。そして平成15年、訪れた人々が忍者の衣装に着替えて、忍者の修行体験をしたりイベントを楽しんだりできる、現在のスタイルが始まった。

イベントを支える  
市民ボランティア

イベント期間中、中心市街地はまるで忍者のテーマパーク。多くの観光客がカラフルな忍者衣装に身を包み、忍者道場巡りや散策に練り出していく。神出鬼没の「じゃんけん忍者隊」にじゃんけん勝負を挑まれたり、豪華賞品が当たる「まちなか忍びの者を探せ!」で市中に潜む忍者を捜し回つたりと、イベントを大いに楽しんでいる

